# 令和　６　年度　博物館施設 目標設定・評価シート

年度末確定評価

施設名　嵐山史跡の博物館

Ⅰ 自己点検・分析
　１ 館の使命・ビジョン
　２ 現状分析と課題の抽出
　３ チェックリスト（自己点検表）

Ⅱ 目標設定
　１ 中期重点目標と取組みの設定
　２ 単年度指標による数値目標と達成値
　３ 取組みの概要

Ⅲ 評価
　１ 自己評価総括
　２ 外部評価委員等によるコメント

施設名　嵐山史跡の博物館

Ⅰ 自己点検・分析

1 館の使命・ビジョン

1　菅谷館跡や比企地域の中世城館跡をはじめとする文化財を次世代に継承するため、資料の調査研究、収集保管及び活用を図る。
2　県内の中世城館跡や寺院跡、板碑や中世石造遺物等に関する調査研究の成果を市町村等と連携しながら展示公開する。
3　地域や学校と連携し、菅谷館跡や比企地域の中世城館跡をはじめ中世の史跡に関する学習を支援する。
4　ボランティアの育成や活用を積極的に行うとともに、地域社会の様々な団体と連携して事業を行うなど開かれた博物館活動を推進する。
5　菅谷館跡を中心に県民が集い、交流し、活動するやすらぎと潤いのある快適な歴史空間を提供する。

2 現状分析と課題の抽出

・　菅谷館跡における発掘調査の必要性は認識しているものの、実施の予定が立っていない。
・　比企地区の城館跡や石造遺物等に関する調査研究成果の展示は、比企地区巡回展などを通じて展開中。
・　学校団体（主に小学3年生）からのニーズは「むかしの暮らし」の体験であり、当館が使命として掲げる「中世の史跡に関する学習の支援」とは乖離している。
・　ボランティアの高齢化、活動内容の硬直化・陳腐化への対応が必要。
・　快適な歴史空間の創出のため、館跡の整備（樹木の剪定伐採・草刈り等）が不可欠だが、予算面や人員面で対応不十分。
・　施設の老朽化、維持管理経費の高騰による事業経費への圧迫が深刻。

Ⅱ 目標設定

1 中期重点目標と取組の設定

【中期重点目標】

①　菅谷館跡保存活用計画の策定（5年度）と、策定後の実施　　令和5～7年度
②　情報発信の充実　　令和5～7年度
③　館跡の樹木・草地管理による危険の除去と景観の向上　　令和5～7年度

【取組み】

①　遺構保存管理チェックリストの作成、植栽管理計画の作成、構造物撤去の洗い出し
②　館の魅力向上と随時・的確な情報発信及び発信効果の検証
③　ナラ枯れ樹木や老木の伐採、職員による草刈りの頻度上昇

Ⅰ－3 チェックリスト（自己点検表）　　施設名　嵐山史跡の博物館

（1）全館共通項目

| 達成基準 | |
|---|---|
| 未実施、又は取り組まれていない | 1 |
| 実施しているが、取組みが不充分 | 2 |
| 実施、又は達成している | 3 |

| 項目 | | チェック内容 | 達成度 | 課題等 |
|---|---|---|---|---|
| 資料収集 | ① | 資料の収集方針、収集計画に基づき、資料収集を適切に行っているか | 3 | |
| | ② | 映像資料や情報資料等を収集しているか | 3 | |
| 資料の保存管理 | ① | 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項に基づき、資料の保存管理を適切に実施しているか | 3 | |
| | ② | 資料の所在確認とともに状態の点検を定期的に行うなど、資料を適切に管理しているか | 3 | |
| | ③ | 資料の修復や保存処理等の措置を計画的あるいは必要に応じて行っているか | 3 | |
| | ④ | 資料のデータベースの情報を適宜更新し、公開しているか。 | 3 | |
| 資料活用 | ① | 収蔵資料の館外貸出及び特別利用に適切に対応しているか。 | 3 | |
| | ② | 収蔵資料をホームページやSNS等で紹介・更新しているか | 3 | |
| | ③ | 収蔵資料のデジタル・アーカイブ化（画像を含めた）に取組んでいるか | 3 | |
| 常設展示 | ① | 展示設備等を適宜点検しているか | 3 | |
| | ② | 常設展示は定期的に更新しているか。 | 3 | |
| | ③ | 展示ガイドあるいは解説リーフレットを作成し、必要に応じて内容を更新しているか | 3 | |
| | ④ | 展示解説等を適宜実施しているか | 3 | |
| | ⑤ | アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか | 3 | |
| | ⑥ | 日本語を母語としない入館者に配慮した案内表示や展示パネル表示、パンフレット等の配布を行っているか | 2 | 英語パンフレットの配布等を今後検討 |
| | ⑦ | 観覧者の満足度は得られているか | 3 | |
| 学習支援・普及事業 | ① | 誰もが参加しやすい普及事業を実施しているか（参加申込み方法・プログラム内容・サポート体制等） | 3 | |
| | ② | アンケートなど県民の意見をプログラムの開発・改善に取り入れる工夫をしているか | 3 | |
| | ③ | 来館者用の図書・情報コーナーを適切に運営しているか | 3 | |
| | ④ | 学芸員実習やインターンシップを積極的に受け入れているか | | 人員が少なく学芸員実習の対応は不可能 |

| 項目 | チェック内容 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 情報発信 | ① | SNS等その他のあらゆる媒体を活用して、誰もが受け取ることができる情報発信に努めているか | 3 | |
| | ② | 資料その他の専門分野に関する調査研究の成果を生かした情報発信に努めているか | 3 | |
| | ③ | 定期的に内容を更新し、常に新しい情報発信を行っているか | 3 | |
| | ④ | デジタル技術を活用したコンテンツの制作・公開に取組んでいるか | 3 | |
| 県民との協働・地域連携 | ① | ボランティア活動に関する規程に基づいて、適切に運用されているか | 3 | |
| | ② | ボランティア研修を適切に実施しているか | 3 | |
| | ③ | 外部団体が館事業に参加する機会を設けているか | 3 | |
| | ④ | 地域で実施されるイベント等に積極的に関わっているか | 3 | |
| | ⑤ | 地域の多様な主体との連携に取り組んでいるか | 3 | |
| 調査研究 | ① | 収蔵資料に関する調査研究に積極的に取り組んでいるか | 3 | |
| | ② | 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか | 3 | |
| | ③ | 館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか | 3 | |
| | ④ | 学芸員の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか | 3 | |
| | ⑤ | 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法（著作物、展示、講演、研究発表等）で公開しているか | 3 | |
| 施設・アメニティー | ① | 施設の維持・改善についての計画を策定し、定期的に更新しているか | 2 | 優先順位を付けつつ修繕を適宜実施しているが計画策定には至っていない |
| | ② | バリアーフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか | 3 | |
| | ③ | 一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか | 3 | |
| | ④ | 手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか | 3 | |
| | ⑤ | 館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか | 2 | 英文等標記は一部にとどまるため今後対応 |
| | ⑥ | 展示室内の安全性の確保（監視員の配置・監視カメラの設置等）に努めているか。 | 2 | 施錠ケース内で展示し安全性を担保（原資料は1点のみ露出） |
| 施設の利活用 | ① | 施設利用のための情報を公開しているか | 3 | |
| | ② | 施設を一般及び学校団体等の利用に提供しているか | 3 | |
| | ③ | 施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか | 3 | |
| | ④ | 施設利用が、地域や他施設・機関・学校等との連携に役立っているか | 3 | |

（2）館別独自項目

施設名　嵐山史跡の博物館

| 達成基準 | |
|---|---|
| 未実施、又は取り組まれていない | 1 |
| 実施しているが、取組みが不充分 | 2 |
| 実施、又は達成している | 3 |

| 項目 | | チェック内容 | 達成度 | 課題等 |
|---|---|---|---|---|
| 情報発信の充実 | ① | ホームページやSNSの掲載内容・掲載時期は適切か | 3 | |
| | ② | 情報発信の効果に対する利用者の反応を把握しているか | 3 | |
| | ③ | 館の魅力向上策に取り組んでいるか | 3 | |
| 樹木・草地管理の充実 | ① | 館跡の見回り，危険個所の把握に努めているか | 3 | |
| | ② | 樹木管理・草地管理の頻度は適切か | 2 | 実施しているが敷地面積に対し人員が不足しているため取り組みが及ばない |
| | ③ | 保存活用計画の実施を考慮した管理を行っているか | 3 | |
| 企画展示事業の実施 | ① | 史跡の博物館としての企画展を計画・実施しているか。 | 3 | |
| | ② | 企画展に関連した講座・講演会を開催しているか。 | 3 | |
| | ③ | アンケートを実施して、参加者の意向を把握しているか。 | 3 | |
| 関係機関との連携 | ① | 地域団体と連携した事業展開をしているか | 3 | |
| | ② | 関係団体や大学、他機関と連携した事業展開をしているか | 3 | |
| | | | | |
| 保存活用計画の実施 | ① | 保存活用計画の進捗状況を管理しているか | 3 | |
| | ② | 保存活用計画の推進に向けた予算は確保したか | 2 | 日常的取組にかかる予算は確保しているものの発掘等の予算確保は未達 |
| | | | | |

施設名　嵐山史跡の博物館

## Ⅱ－2 単年度指標による目標値と達成値

### （1）全館共通項目

| | 視点 | 項目 | 指標 | 目標値 | | 達成率 | 目標値の設定根拠 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 達成値 | | | 特記事項 |
| 1 | 資料の保存活用 | 利用者数 | 年間入館者とアウトリーチ参加者数 | 54,000 | 人 | 102.5% | 第４期教育振興基本計画に基づく。R5年度実績54,793人 |
| | | | | 55,380 | 人 | | |
| 2 | 展示公開 | 利用者数 | 企画展観覧者数 | 2,500 | 人 | 114.7% | 令和５年度企画展　2,311人　2024/1/13～3/3 |
| | | | | 2,868 | 人 | | |
| 3 | 学習支援 | 情報発信 | HPアクセス数 | 95,000 | 件 | 144.3% | 令和５年度アクセス数　94,242件 |
| | | | | 137,124 | 件 | | |
| 4 | 地域連携 | 情報発信 | メディア掲載件数 | 100 | 件 | 58.0% | 対メディア情報提供件数に読み替え　令和５年度　98件 |
| | | | | 58 | 件 | | |
| 5 | 歴史空間の提供 | 経営努力 | グッズ・図録等の売上額 | 1,700,000 | 円 | 106.0% | 令和５年度　物品売払収入決算額　1,676,900円 |
| | | | | 1,802,200 | 円 | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

### （2）館別独自項目

| | 視点 | 項目 | 指標 | 目標値 | | 達成率 | 目標値の設定根拠 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 達成値 | | | 特記事項 |
| 1 | 学習支援 | 広報<br>事業内容<br>事業効果 | 歴史講座への応募人数 | 1,500 | 人 | 32.6% | 歴史講座3回予定　定員各500人×３回 |
| | | | | 490 | 人 | | いずれも抽選とはならなかったため、応募人数は参加人数とする。 |
| 2 | 学習支援 | 事業効果 | 歴史講座の満足度 | 100 | % | 93.0% | |
| | | | | 93 | % | | 各講座ごとにアンケートをとって測定 |
| 3 | 学習支援 | 広報<br>事業内容<br>事業効果 | 文化財めぐりへの応募人数 | 100 | 人 | 107.0% | 文化財めぐり　定員各30人×３回 |
| | | | | 107 | 人 | | 定員はおおよその目安とし、微超過であれば参加を受け入れたため100%超とな |
| 4 | 学習支援 | 事業効果 | 文化財めぐりの満足度 | 100 | % | 98.0% | |
| | | | | 98 | % | | 各回でアンケートをとって測定 |
| 5 | 学習支援 | 事業効果 | 学校向け体験学習の学校からの評価 | 100 | % | 84.0% | 各校にアンケートをとっていないため、実施校数の前年度比率を満足度に読み |
| | | | | 84 | % | | 体験学習実施校数はR5年度は25校、R6は21校。 |
| 6 | 歴史空間の提供 | 経営努力 | 館独自グッズの開発検討件数 | 5 | 件 | 580.0% | R5開発数6 |
| | | | | 29 | 件 | | 御城印帳1種、ガチャ4種、御城印 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

※ 利用者数＝常設展観覧者数+無料入館者数+アウトリーチ参加者数　常設展観覧者数＝特別展・企画展観覧者数+常設展のみの観覧者数
※ 基準値：過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値　目標参考値：基準値と昨年度値を比較して大きい方の数値　目標値：目標参考値の1の位を繰り上げした数値　※ 目標値の設定については、経年の実績を同じ指標で比較することで、それぞれの年度の特徴づけをするために、新型コロナウイルス感染症に よる利用者への影響等を考慮しないで、例年通りの方法を採用した。

３ 取組の概要　　施設名　　嵐山史跡の博物館

【令和6年度中期重点目標に対する取組】
①　菅谷館跡保存活用計画の策定（5年度）と、策定後の実施　　令和5～7年度
〔取組み〕遺構保存管理チェックリストの作成、植栽管理計画の作成、構造物撤去の洗い出し
・チェックリストに基づく職員による定期的な史跡の見回り
・植栽管理計画の策定
・構造物の状況把握

②　情報発信の充実　　令和5～7年度
〔取組み〕館の魅力向上と随時・的確な情報発信及び発信効果の検証
・ホームページ、SNS（X）での情報発信（HP年間更新件数112件、SNS年間更新件数108件）
・歴史講座、博物館ミニ講座、企画展記念講演会の実施（歴史講座全3回参加者数490名、博物館ミニ講座全3回参加者数181名
企画展記念講演会参加者数261名、合計932名）
・ミュージアムグッズの開発検討（「Ⅱ－２ 単年度指標による目標値と達成値」中「（２）館別独自項目」の「６」を参照）

③　館跡の樹木・草地管理による危険の除去と景観の向上　　令和5～7年度
〔取組み〕ナラ枯れ樹木や老木の伐採、職員による草刈りの頻度上昇
・業者による強剪定、樹木伐採、除草作業等　4回、史跡整備ボランティアによる伐採（冬季）、職員による樹木・草地管理　随時
・延べ伐採本数26本

施設名　嵐山史跡の博物館

## Ⅲ 評価

### 1 自己評価総括

（1）評価

入館者数は年間・企画展期間ともに前年度実績を上回った。
NHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』が放映された令和4年度は、県を挙げて観光を中心に様々な事業が展開され、その影響から当館でも個人一般入館者が昭和51年の開館以来最多となった。次いで令和5年度の入館者数・企画展は前年から数値を大きく落とすこととなった。令和6年度企画展では、当館のミッション（使命）の根幹をなす「城」を取り上げて多くの城郭愛好者を惹きつけた結果、目標以上の結果が得られた。
また職員の創意工夫により、オリジナリティにあふれたミュージアムグッズを開発しPRに努めた。その結果、グッズ・図録等の売上げ額は前年度を大きく上回った。
展示やグッズ以外にも、県民向けの歴史講座や史跡めぐりなどの事業に対する博物館利用者の関心や満足度も高く、ホームページのアクセス数はほぼ前年度比1.5倍の数値となった。
以上をふまえ、博物館のミッションに基づき、なおかつ県民のニーズを捉えた事業が展開できたと評価したい。

（2）課題と対応の方向

令和5年度に策定された菅谷館跡保存活用計画に基づき、史跡の保存活用、調査研究、整備や博物館の運営に取り組む必要がある。一見すると数値に反映しづらい事業展開ではあるが、博物館が根本的に果たすべき役割は何かを踏まえながら、地道に運営していきたい。職員数が少ない小規模館であるため、今後も大きく数値を伸ばすことは難しいと考えるが、「中世」「武士（畠山重忠を中心とする武蔵武士）」「中世城館跡」という強みを軸に、継続して入館者増に向けて取り組んでいきたい。
さらにホームページやSNSなどで魅力的な発信をすることで、実際に来館しない利用者を開拓することは可能であり、ここに大きく数値を伸ばす要素があると見込める。
なお比企地域には博物館・資料館に相当する施設を持たない自治体もあり、当館の展示・事業が地域の歴史に関心をもつ住民の欲求を満たす役割を果たしているものと思われる。この点を踏まえ、地域自治体と連携して県立館としての存在意義を発揮しつつ、地域の文化振興にも寄与したい。

### 2 外部評価委員等によるコメント

・館内に設置されているパソコンにおいて、多言語で説明を提供できていることはいいことだと思う。
・地元とのつながり大切なことであるので、続けていってほしい。
・お城好きな人も多いと思うので、そういう人達に対して、SNSなどで御城印等の情報を発信し、投げかけていくことが大切である。
・英語パンフレットの配布等を今後検討とあるが、英語だけでなく外国語とすべきである。
・企画展を冬季に開催しているようだが、来館者の多い時期に開催することも考えられるのではないか。
・目標値が高いこともあるが、学習支援の歴史講座への応募人数の達成率が低いのが目立つ。
・嵐山史跡の博物館は、地元に密着しているところが一番の強みであるので、館の行事などの際に地元比企郡の市町村にも協力してもらって、館をアピールしてもらうことも一つの手である。
・館独自のグッズの開発が多いことはいいことである。